

話題 2 4 国の「政策医療」に理解と支援を

国の「政策医療」に対する県民のご理解とご支援に深く感謝いたします。国立療養所は県内に四施設配置されました。ハンセン療養所として名護市の沖縄愛楽園、宮古島市の宮古南静園、精神疾患を担当する金武町の琉球病院、そして結核、筋ジス、神経難病対策を担う宜野湾市の沖縄病院の四施設です。

ハンセン療養所は、入所者の高齢化に伴い生活習慣病対策と施設運営の将来構想の策定にむけた新たな展開を模索しております。安心して療養に専念できる医療・設備の提供、加えてハンセン病に対する正しい理解と啓蒙に一層のご支援をお願いいたします。

琉球病院と沖縄病院は独立行政法人へ移行して五年が経過しました。国立病院機構琉球病院は重症心身障害児（者）の療養施設の役割を担うとともに、「心神喪失の状態で大変な他害行為を行った者の医療および観察に関する法律」に基づき、医療観察法病棟を有し、広く精神科疾患の診断と治療を行うとともに、修正型電気けいれん療法の導入、アルコール依存症専門外来、セカンドオピニオン外来を開設、精神疾患全般の診療に対応いたします。

戦後の混乱期、結核が蔓延した昭和二十三年、米軍の占領下に開設された沖縄民政府公衆衛生部金武保養院も六十年の歴史を重ね、国立病院機構沖縄病院として「結核を含む呼吸器疾患」「筋ジストロフィーを含む神経・筋疾患」、肺がんを中心とする「がん診療」を三本の診療の柱とし、地域医療に参画しております。

かつて結核単独で五百床規模の病床を必要とした時代から、現在の二十数床で事足りる結核診療は、沖縄県の結核医療の勝利を物語るものです。先人の献身的努力と功績に敬意を表するとともに多剤耐性結核、エイズ合併結核、超高齢者結核対策等と結核の撲滅まで国の政策医療として担っていきます。

筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症（ALS）をはじめ沖縄県の神経難病対策にも中心的役割を果たします。

独立行政法人へ移行、第一期中期計画は国の政策医療を担いつつ、施設の経営基盤の確立が急務でした。公務員の意識改革に ISO9001:2000 認証取得、外来化学療法室、緩和ケア病棟開設、一般病棟を「がん専門病棟」へ転換。療養介助職に十六名の若者を採用、医師、看護師の増員、地域連携室に「がん・難病相談支援室」を併設しました。

第二期中期計画では、診療の質の向上が目標となります。国の政策医療を中心に、地域医療のセーフティネットとしての役割を果たすとともに雇用の拡大に努めます。県民のご理解とご支援をお願いいたします。